

旧道

今帰仁城のほとんどの建物は、防衛を優先して設計されました。14 世紀、この城を築いて居城とした北山王には、南の中山王国に政敵と信用のおけない同盟者がいました。全面戦争は一般的ではありませんでしたが、一触即発の状態でした。当時の琉球の軍隊は、しばしば簡単な火器を持っていたものの、主に強力で正確な弓矢での攻撃に依存しており、戦闘は主に徒歩で行われました。近接戦闘には精巧な剣が使用されましたが、沖縄では鉄鉱石が不足していたため、多くの剣を日本から輸入していました。

現在、平郎門から城の上部の区画までの主要経路として使用されているまっすぐな石の階段は、1960 年に建設されました。元の経路は長い間不明でしたが、1980 年の発掘調査で、粗く切り出された石でできた狭くて急な道が発見されました。この道はむき出しの岩盤の間を通っており、敵の侵入を困難にするために意図的に大きな岩で遮られています。一列縦隊でしか登れないため、大軍の敵にとっては攻略が難しかったでしょう。それに関わらず、1416 年今帰仁城は、謀略と裏切りを利用した中山軍に攻め落とされ、焼かれてしまいました。また、1609 年、今帰仁城は、優れた武器と圧倒的な軍勢を持つ九州・薩摩藩の侵略軍の攻撃によって、再び攻め落とされ焼かれました。